

5/3 635キロ絆で走破だ

東日本大震災からの復興支援に感謝を込めて、友好都市を結ぶ福島県白河市と埼玉県行田市、三重県桑名市の市民ランナーたちが2日、3市の



計94区間約635キロをたすきでつなぐ「絆リレーマラソン」をスタートさせた。白河市を出発し、ゴールの桑名市に6日午前に着する予定。3市は、江戸時代に白河藩主が桑名へ、忍藩主が白河へと国替えされた縁で友好都市となった。大震災では、行田、桑名両市が白河市に職員27人を派遣するなど支援活動を行った。

白河～行田～桑名 リレーマラソン出発

福島の元気と感謝を届けようとスタートした「絆リレーマラソン」(2日午前4時、福島県白河市で)

リレーマラソンは、「白河走ろう会」など3市のランニング愛好家団体が企画した。午前4時、花火が上がる中、同会で最年長の田村富男さん(81)が白河市・小峰城を出発。奥州街道や東海道旧道などを計63人が力走し、桑名市・九華公園を目指す。

ゴール後は、復興支援への感謝や風評被害払拭の協力を求めた鈴木和夫・白河市長のメッセージを、伊藤徳宇・桑名市長に届ける予定。同会の大花務会長(63)は「元気に完走し、感謝の気持ちを走りでも示したい」と意気込みを語った。

